

2016年12月忘年山行「天城連山縦走」山行記

2016年12月3日（土）に湯ヶ島温泉の民宿「いろりの宿 三吉」に前泊し、忘年会を満喫。予約したジャンボタクシーで旧天城トンネルへ移動。日の出（6：34）前の6時20分に着いた。「伊豆の踊り子」も通った天城峠へ向け6時35分登山開始。

天城峠まではやや急な道を足慣らしに小股でゆっくりゆっくり歩く。峠からは早速ブナとヒメシャラの樹林帯が出迎えてくれる。

山の端が赤く染まってきて、やがて好天が期待できる青空に。向峠までの途中、左奥に富士山が観えてきた。この後も八丁池まで富士山が終始私たちに歓迎してくれました。

先頭を歩く私は、天城連峰縦走のロングコース（全17Km）をどんなペースで歩き、何時に天城縦走登山口バス停まで到着するか事前にシュミレーション（行動予定表作成）していました。河野リーダーからは、15時のバスに間に合うようにリードして欲しい、と頼まれました。

しかし私の予想実働時間は9時間10分（標準歩行時間7時間30分）で終点には15時50分到着予定。とても15時10分のバスには間に合わない、とリーダーに説明しました。

それでもなるべくリードしてほしいとリーダーの指令。

誰かがタイムキーパーをしなければ、大人数を纏めることはできない。それは先頭を歩くSLの努めだと思いました。

そこでせめて16時10分発のバスに間に合わせたい、と思って皆様の先頭を歩きました。

向峠到着の段階で予定より10分遅延。比較的穏やかな山道が続く戸塚峠までは少しピッチを上げて歩くようにしましたが、13名と大勢ですので足並みをそろえることは難しい。

時間との戦いを気にしながらの山歩きほどつまらないことはない、と思いつつ時計を気にしながらブナの樹林帯を楽しむ。

やがて八丁池手前の見晴台分岐に到着。2分歩いた鉄製ヤグラの見晴台からは360度の展望。

眼下に八丁池が佇み「天城の瞳」そのものだ。富士山と南アルプスの展望を堪能。

10分で八丁池の畔を暫しまったり。静かだあ～。

まだまだ半分も歩いていない。白田峠で行程半ば。先は長い。頑張って戸塚峠、ここで昼食タイムを20分に短縮。

この先は天城連峰の最深部に入る。登山道も急になり、小岳を越えて百名山の「万三郎岳」（1405.6m）を登頂、万歳三唱！

ここで小さな奇跡が。万二郎岳方面から登ってきた女子3人パーティと遭遇。お互いに全員集合の記念写真を撮ることができました。万三郎の計らいに感謝！

登山道には、アマギシャクナゲやアセビのトンネルがあり、季節にはお花が楽しめそうだ。

「万二郎岳」で宿輪さんが帰途の特急踊り子号に乗車のため、先に下山。

下山開始し四辻を過ぎた頃には少し暗くなり始めた16時26分、バス停に着いた。長かった！

あと16分とどかず、日没。漆黒のバス停でヘッドランプを点け、寒さに震えること1時間14分。貸し切り状態のバスで帰途に着きました。

好天と展望に恵まれ、後半はやや風も出てきましたが、13人全員が17Kmの長丁場を無事完歩することができました。

13人それぞれの天城を、そしてみんなの天城を楽しむことができたと思います。

個人的には、ゴルフ場が閉まっていたので、天城山のバッチを買えなかったのは残念ですが。参加の皆様、お疲れ様でした。心地よい疲れと達成感に浸っています。

(2016年12月6日 SL:加田)

(以下、サブリーダー市川さんの「山行記」)

今回は、17kmと長丁場で有ることは、最初から分かっていたのですが、実際に歩いてみると、山道で、この距離が、かなりキツイ事が、よく分かりました。

それにしては、女性達が良く、頑張ったと思います。

私は、後方グループを歩きましたが、13人もいると、歩くペースが、明らかに違うので、二つに分かれたのは、しかたないと思いますが、自分としては、後方グループは、出来るだけまとまって歩く様にしたつもりでも、何度か、後続を、待つことになりました。

今回は、4時10分のバスの後、1時間半後でないとバスが無いことも分かっていたので、先頭のSLは、かなり苦勞されたと思います。

残念ながら、4時のバスには、間に合いませんでしたが、ゴルフ場と下のバス停でバスを待つ間に日も暮れて、ヘッドランプまで、使うことに成り、真っ暗な道を歩かないよう、ペースを早めてくれた加田SLには、感謝です。

SL補をしてみて、先頭を歩く事の難しさが、少し分かった気がします。

ご苦勞様でした。

(2016年12月6日 SL:市川)